

全 教

実教部NEWS

第115号

2020/1/6 発行



## 2019年度 ブロック交流集会の報告

関東・甲越ブロック交流集会 2019/7/28～29 (埼玉県・川越市)

埼玉県川越市「えすぼわーる伊佐沼」にて集会が開催され、新潟高・群馬高・茨城高・横浜高・埼玉高から、2日間合わせて13名の参加がありました。また、全教実教部担当書記の寺浦さんも自宅が埼玉県ということもあり参加していただき交流を深めました。

1日目は、あいさつの後、埼玉高中央執行委員長の新島先生から「多忙化解消負担軽減のとりくみ」「参加と共同の学校づくり」「高校統廃合」など多岐にわたった情勢の話がありました。

労働時間状況の把握として、埼玉県は、ICカードが今年度中に試行で導入されるのが決まりましたが、すでに導入されている横浜高から「残業が多いと管理職に呼び出されるので、一度通して帰ったことにしてから仕事をする」「機械が一台で時間帯によっては混雑して困る」などの実体験からの問題点を指摘してもらいました。また、群馬高から「支給PCの電源入切(オン・オフ)で管理されていて、産業医の面接と言われる前に、電源を切る」など勤務時間等を管理されることで逆に仕事がやりにくくなることが話されました。

さらに、全教本部の書記寺浦さんから「時間外が多いと上からの指摘があるが、全国で頑張っているみなさんのことを考えるとやってしまう」との話、働き方改革は、意識改革からだと思うが、一概に言えない難しさに考えさせられました。

その後、全教実教部副部長でもある新潟高の高橋先生から「全教実習教員部の状況について」話していただきました。交流会にうつり、横浜高・小島先生の「横浜市内実習手配置」、茨城高・横瀬先生の「茨城の高校統廃合・教育改革と実習教員」の二本のレポートについて話し合い、たっぷり各県の状況を交流しました。夕食交流会には、残念ながら、不参加となった元全教実習教員部副部長をされた埼玉高の山田先生よりドリンクの差し入れが大量にあり、おかげで懇親に花が咲きました。



2日目は、参加者一人ひとりから、今、抱えている問題などを話してもらい、参加者みんなで考えました。自分の問題を仲間と共有することで、明日から頑張ろうという気持ちになり、閉会となりました。ランチは川越名物さつま芋懐石のお店『いも膳』に向かい、「これ全部お芋なの?」なんて驚きながらもお芋のフルコースを味わいました。



中国・四国・九州交流集会 2019/8/10～11 (香川県・宇多津町、丸亀市)

香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」を会場として、31名(岡山高4名、長崎高4名、山口高1名、佐賀高3名、香川高19名)の参加で開かれました。

1日目、香川高教組の福崎実習教員部長より歓迎のあいさつ、安部執行委員長の香川高実習教員部の運動についての概要が紹介され、学習交流集会が開会されました。学習会として、岡山高の藤元広明全教実習教員部常任委員



より「実習教員部運動の歴史と今後 ～待遇改善をめざして～」として、工業高校卒業後のご自分の実習教員としての経験をふまえ、わかりやすく実習教員部運動について講演いただきました。



交流会では、昇任制度、免許更新、再任用時給与体系の3点を中心に、各県の状況報告がありました。佐賀県では、再任用時の実習教諭の給与を4年目に2級にあげることを獲得。長崎県は、再任用時に、教諭はハーフタイム・フルタイムの選択できるが実習教員はフルタイムのみで給与は全員1級のみ。山口県の昇任制度は一般教科・看護など単位講習がなく任用替制度がない。工業・農業などは任用替があり教諭と同じ立場になる。2018年3月に呼称変更について県教委から勝ち取り、県全体で変更していきたいが学校間での温度差がある。岡山県の昇任制度は6年10単位で教諭への任用試験は以前にはあったが、最近はおこなわれていない。免許更新は、免許を持っている人で2級になっている人はおこなっている。再任用の給与は2級に格付けになった人でも1級の賃金になっているが、実習免許を持っている人は2級のみである。香川県の昇任制度について、経験年数の条件があるが、この経験年数に期付講師の期間をみてくれないことが問題。これまでは昇任試験は受けたら合格していたが、昨年度初めて不合格者が出て危機感を持っているとの話が出た。



夕食交流会では、骨付き鳥、うどんすきなど讃岐の味を堪能していただき楽しい時間を共に過ごしました。

2日目、讃岐ならではのセルフうどん店で店外まで続く行列に並び、朝うどんを県外のみなさんにも体験していただきました。丸亀城に移動し「うちわづくり」体験と丸亀城を見学しました。香川の伝統工芸品、うちわの柄の太さの竹を割っていく「骨割き」と、開いた骨組みに好きな絵柄の紙を貼る「紙貼り」をして、オリジナルの本格的な竹組のうちわを作ってお土産に、丸亀城では城壁の説明や城主の歴史など専門のガイドの方に説明を受けました。また、昨年大雨で崩落した城壁も見させていただきました。

参加者のみなさんに満足していただき、有意義な2日間の学習交流会となりました。

## 北陸・中部・東海ブロック交流集会 2019/10/19～20 (富山県・富山市)

富山県富山市「いこいの村磯波風(いそっぶ)」にて開催した今集会は、心配された台風の影響もなく、愛知高・岐阜高・富山高・長野高・福井高・名古屋高から2日間で、のべ15名の参加でおこなわれました。

初日は、開会行事、続いて富山県にまつわるご当地クイズがおこなわれ心温まる歓迎行事ではじまりました。

その後は、自己紹介を兼ねて各組織の紹介及び日頃の実践報告、開催組織(富山高)から各組織へ向けて回答依頼があった実習教員の職務に関する事前アンケートを討論の中心に据えた意見交流、組織代表者会議、夕食交流会へと進み、終始和やかな雰囲気の中初日を終わることが出来ました。

2日目は、初日に引き続き事前アンケートを討論の中心に据えた意見交流をおこないました。

2日間の意見交流を通じ「組織拡大(組織率向上)のとりくみ」「2級昇任」「採用選考・対策講座」「単独引率」「教員免許更新講



習」「校務に関する資格取得経費と公費負担の状況」「制度改革」「障害者特別選考」等について、教科の垣根を越えた「学び合い・語り合い・集い合い」が予定時間をオーバーするほど熱心におこなわれました。

集会のまとめにあたり、開催組織を代表して富山高教組実習教員部佐藤部長が今集会総括のあいさつをされ集会を締めくくられました。

その後、前日の組織代表者会議にて次年度開催組織（岐阜教組）より提案・承認された、2020年度開催日程（2020年10月17日（土）・18日（日）岐阜県美濃市）の確認、北陸・中部・東海ブロック交流集会恒例の富山高教組から岐阜教組への集会旗引き継ぎセレモニーがおこなわれ、全日程を終了しました。

結びにあたり、改めて今集会開催にあたり物心両面でご尽力頂いた富山高教組実習教員部のみなさんに心底より御礼申し上げると共に、今後も、北陸・中部・東海ブロック学習交流集会が未永く開催されること、組織を超えた横のつながり（くみあい）がよりいっそう強くなっていくことを祈念し報告とさせていただきます。



### 近畿ブロック交流集会 2019/11/23～24（和歌山県・和歌山市、海南市）

初冬、真っ青に晴れた空の下おこなわれた集会には和歌山高・兵庫高・京都・滋賀・大阪高から2日間で合わせて18名の参加がありました。

初日の和歌山県立高等学校教職員組合委員長東山先生からのあいさつでは、近畿ブロックの交流の歴史など、私たちの知らなかったことを教えていただきました。全体集会では各府県交流として今年度の確定交渉の報告があり、同じ近畿ブロック（近高連）の中といえども内情は異なるので、非常に参考になりました。大阪府の150名採用選考（内20名は障害者選考）は、教科だけではなく支援学校も含めての採用であっても、単年度に大量採用をすることは現場の混乱をまねきかねず、危険性を伴うように感じられました。また、タイムカードの導入は既に大阪府、京都府、兵庫県では実施されているので、現段階での様子を聞き、本来の勤務時間の把握という目的とは離れた問題が起こっていることを知りました。

2日目は場所を移動して海南市「紀州漆器伝統産業会館 うるわし館」で蒔絵の絵付け体験をしました。お盆などの材料から好きな柄を選んで下絵に塗料を塗り、着色された粉を蒔いて色をつけます。始まるとともに波を打ったように静かになり、全員が集中してとりくみました。その後全員で黒江の町並みを眺めつつ名手酒造の黒牛茶屋を見学し、解散となりました。

年々忙しくなる中、このように集まり、顔を合わせることは非常に大事なことです。職場では少数職種で寂しい思いをしていますが、ブロック集会では自分一人ではないという心強さや元気をもらえます。それぞれの場所で、みんな頑張っているのだから、また明日から私も頑張ろうと思える気持ちが湧いてきました。次年度は兵庫県の開催ですが、この近高連の交流集会を毎年開催できるよう大事に続けていきたいと思いました。



### 北海道・東北ブロック交流集会

全国学習交流集会を北海道札幌市の定山溪温泉で開催したため、今年度はブロックでの交流集会をおこないませんでした。